令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	いわき市
施設名	いわき芸術文化交流館
内定額	14,688　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
人-01	舞台技術基礎講座	R7.4.21～R8.3.16	いわきアリオス 中劇場ほか
人-02	リージョナル・シアター2025 いわきアリオス演劇部Plus	R7.8.1～R8.3.8	いわきアリオス 小劇場ほか
人-03	子どもたちの文化芸術活動支援事業	R7.8.1～R8.3.14	いわきアリオス 大ホールほか
人-04	アリオス☆子どもの弦学校／大人の弦学校	R7.4.3～R8.3.29	いわきアリオス 音楽小ホールほか
普-01	第11回いわき文化春祭り	R7.5.31～6.1	いわきアリオス 大ホールほか
普-02	アリオス・オープンデイ	R7.7.20～7.21	いわきアリオス 中劇場ほか
普-03	えほんでクラシック♪	R7.10.19	いわきアリオス 中劇場
普-04	アリオス ダンスプロジェクト　時空おどりびと	R7.10.30～11.8	JRいわき駅前
普-05	おでかけアリオス	R7.6.18～R8.2.11	いわきアリオス 中リハーサル室ほか
普-06	ホスピタルシアタープロジェクト	R7.12.9～R8.2.8	いわきアリオス 中リハーサル室ほか
普-07	所蔵楽器チェンバロ普及コンサート	R7.10.4～R8.3.1	いわきアリオス 音楽小ホール
普-08	アリオス ダンスプロジェクト　いわきアリオス×Dance Base Yokohama	R7.10.10	いわきアリオス 小劇場
普-09	地域連携事業	R7.5.10～10.5	いわきアリオス 中劇場ほか

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業		21	23	18
		公演事業	7	6	3
		（内、本助成対象事業本数）	0	0	0
		人材養成事業	3	4	4
		（内、本助成対象事業本数）	0	4	4
		普及啓発事業	10	12	10
		（内、本助成対象事業本数）	0	9	9
		共生社会事業			
		（内、本助成対象事業本数）			
		その他　内容：　ギャラリー等活用事業	1	1	1

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	613	621	701
	ホール名：アルパイン大ホール　座席数：1705	181	173	195
	ホール名：セキショウ中劇場　座席数：687	135	168	158
	ホール名：GSユアサいわき小劇場　座席数：233	130	138	171
	ホール名：音楽小ホール　　座席数：200	167	142	177
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目			令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数		46,510	56,061	58,501
		公演事業	5,862	4,317	2,612
		人材養成事業	326	1,377	2,050
		普及啓発事業	5,322	12,907	16,535
		共生社会事業			
		その他　内容：　ギャラリー等活用事業	35,000	37,460	37,304
	貸館事業入場者・参加者数		192,358	169,707	169,818
	その他　内容：練習室利用者		92,736	105,786	114,707
	計		331,604	331,554	343,026
開館日数			344	347	347
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））			344	347	347
施設の利用日数			344	347	347
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）			100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	7	5,862	2	3		1	1		
	共催・提携公演（※2）	19	23	30,830	3	14			1		1
	貸館公演	476	478	192,358	60	306	33	2	3		72
	計	502	508	229,050							
令和6年度	主催公演（※1）	6	6	4,317	2	3			1		
	共催・提携公演（※2）	17	19	23,903	2	10	2		1	2	
	貸館公演	346	346	145,804	13	220	19	4	5		85
	計	369	371	174,024							
令和7年度	主催公演（※1）	3	3	2,612	1	1			1		
	共催・提携公演（※2）	26	38	30,084	4	17	2	0	1	1	1
	貸館公演	346	346	139,734	17	230	19	4	8	5	63
	計	375	387	172,430							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	いわき市
施設名	いわき芸術文化交流館
内定額	14,688　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	①専門人材育成事業への応募者数（定員充足度） ②育成対象者の研修後の反応	①4 事業で募集定員を上回る、総育成者数 700 人 ②アンケートで好評価を得る（「期待通りの成果あり」「期待以上の成果あり」の回答が 90%以上）	①総育成者数 928 人 ②98%
普及啓発事業	①全事業の参加者数 ②新規来館者数	①9 事業中 5 事業での目標参加者数を達成、総参加者数 10,000 人 ②アンケート回答者の 15%以上が「初めての来館」と回答	①9 事業中 2 事業で達成、総参加者数 16,535 人 ②18%
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	評価指標の二点とも目標値を上回る実績であり、特に「②育成対象者の研修後の反応」は想定以上の好評価を得られた。この結果から、人材養成事業は多くの育成対象者の期待や要望に応えられる場と機会を提供できたと言える。

普及啓発事業	
自己評価	目標参加者数を達成できたのは２事業であったが、この２事業が目標値を大きく上回ったことで、総参加者数は目標を達成することができた。また、未達成のなかでも目標達成率が 85%を超えたものが４事業あり、参加者拡大のための広報活動等は効果があったと考えられる。 新規来館者数も目標を達成することができた。今後も新規来館者数の増加を目指すとともに、次の来館に繋がるように、来館者の興味を引き寄せられる事業の構築に努める。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
「普及啓発－2 および同－7 における」観客の反応	アンケートにて「また観たい」と回答する人が 75%以上	91%

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	普及啓発－2（アリオス・オープンデイ）および同－7（所蔵楽器チェンバロ普及コンサート）は、当館の事業のなかでも施設のスペックやスタッフ、所蔵楽器を最大限に活用する公演やワークショップ等を実施している。その事業への反応として、「また観たい」と感じた観客が 91%に達したことは大きな成果であり、文化芸術や当館の魅力を十分に発信して普及できたと言える。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①連携する小中学校数 ②子ども対象事業の参加率 ③生活の質（QOL）の向上度 ④貸館利用者の満足度	①小学校 25 校、中学校７校 ②全ての事業で目標定員を上回る参加者を得る ③「いわきアリオスの事業に参加することや、施設を利用し文化芸術活動をすることが日々の楽しみとなっていますか？」と回答する人が 70%以上 ④75%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	①小学校 25 校、中学校８校、特別支援学校１校（小学生～高校生） ②７事業中３事業で達成 ③87% ④83%

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	「①連携する小中学校数」は、アウトリーチ事業によって目標を達成するとともに、これまで連携できていなかった特別支援学校と関係性を構築することができた。引き続き子どもたちが気軽に文化芸術にふれられる環境をつくるため、学校や教育委員会との連携を強化していきたい。 「③生活の質（QOL）の向上度」および「④貸館利用者の満足度」は、いずれも目標値を大きく上回った。今後の事業や施設の運営においても高い向上度や満足度が得られるように努める。 「②子ども対象事業の参加率」は目標を達成できなかったため、アウトリーチ事業で連携する学校との繋がりを他の事業にも活かす等、参加率が向上するように取り組む。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ) プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ) アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ) 障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①若年層の利用者数（U25 及び子ども対象券種販売数） ②子育て世代に向けた事業数と託児利用者数 ③障がい者向け情報保障(字幕タブレット､台本貸出､ヒアリングループ等)利用数 ④アウトリーチ事業の実施数	①計 700 人、前年度比 15%増 ②6 事業実施、年間 20 組 ③年間延べ 20 人 ④圏域内 45 か所以上	①計 457 人、前年度比 9%減 （計 765 人、前年度比 18%増） ②5 事業実施、年間 2 組 （6 事業実施、年間 6 組） ③年間延べ 172 人 （年間延べ 183 人） ④46 か所 （56 か所） ※カッコ内は対象外事業を含む

（※3）･（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	「③障がい者向け情報保障」では、演劇公演で舞台上に字幕を表示したり、鑑賞のサポートとしてソーシャルストーリーを事前にウェブで公開したりと、観客はだれでも利用できる仕組みにしたため利用者が多数となった。 「④アウトリーチ事業の実施数」は児童・生徒対象の学校公演を中心に、圏域内の様々な地域で事業を実施して音楽や演劇等の文化芸術を届け、各地で参加者から好評を得られた。 若年層および子育て世代に関わる実績は目標値に至らず、利用者数の拡大のために事業の内容や周知の方法を改善する必要があると考える。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	当館のミッションは、地域全体で次世代の文化芸術人材を応援し、持続可能な「文化芸術のあふれるまち」を実現することです。学校や団体に対しては、助成金申請のサポートや企画制作、現場支援を行い、市民が文化芸術活動を続けられるようサポートします。 また、誰もが気軽に文化芸術に触れられる機会を作り、地域コミュニティの再生と関係機関との連携を強化します。広い市域内に住む全ての市民に文化芸術を届け、心豊かな生活を提供することも重要です。市民の参画を得て、先人の功績を踏まえながら、未来の文化芸術の基盤を築き、次世代に継承することを目指しています。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①事業内容の充実を図る機能の構築 ②地域プログラム（ホール外）の拡大 ③インターンシップやスタッフ研修等の受け入れの改善 ④地域で文化芸術活動を行なっている学校・団体の持続可能な活動支援	①連携・関係団体の数　90 団体 ②実施回数　215 回 ③受け入れ件数　５件 ④連携・関係団体数　20 団体	①93 団体 ②150 回（257 回） ③４件（10 件） ④０団体（17 団体） ※カッコ内は対象外事業を含む

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	当館のミッションを達成するためには、採択事業だけを評価するだけでは意味が無く、採択外の事業及び事業以外での支援業務や地域との関係性を良好に紡ぐことが必要であると考えている。そのため、上記採択事業のみでは目標を達成できていない項目はあるが、年間を通して事業以外の業務を含めると、目標を概ね達成することができている。 これら当館が築いた様々な関係を担保し、さらにより良い生活を市民が本市で送れるよう、文化芸術の力を信じ、当館スタッフのスキルを有効に活かしていきたい。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

■ 文化施設間連携による事業展開の拡張

美術館・文学館・劇場といった複数の文化施設が連携し、それぞれの特性を活かしながら事業を展開したことで、ひとつの企画の中に「創作・展示・発表」という多面的な体験の流れを生み出すことができた。例えば、作品をつくる場、鑑賞する場、発表する場を分けることで、参加者や来場者は異なる視点から文化に触れることができ、単発の体験にとどまらない広がりのある文化体験が実現した。さらに、施設ごとの役割分担が明確になることで運営の効率化にもつながり、今後の文化施設連携のモデルケースとしても有効な取り組みとなった。

■ 参加型プログラムによる主体的関与の促進

子どもたちがワークショップで制作したロボットが、そのまま公演の一部として活かされる構成としたことで、「観るだけ」の来場者から「関わる当事者」へと意識を変化させることができた。自分が関わったものが舞台上で表現される経験は、達成感や特別な思い出につながり、文化芸術への心理的な距離を縮める効果がある。また、こうした参加型の仕組みは、保護者を含めた家族単位での関心を高めることにも寄与し、結果として事業全体の満足度やリピート意欲の向上にもつながった。

■ 若手人材の実践的育成機会の創出

地域コーディネーターとして若手演劇人が実際のアウトリーチや公演に関わることで、単なる補助的な役割にとどまらず、参加者と直接向き合いながら現場で学ぶ機会を提供することができた。特に、インクルーシブシアターやリラックスパフォーマンスといった配慮が求められる現場においては、実践を通じてしか得られない気づきや対応力が養われる。こうした経験の積み重ねは、地域における次世代の担い手育成に直結し、将来的に持続可能な文化事業の基盤づくりにもつながる重要な取り組みとなっている。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	助成金やネーミングライツ等獲得に努めている。 （ネーミングライツ） 決定／募集枠：４件/４件（100%）	広報紙（全戸配布）、SNS（X、Instaglam、Facebook）、WEB、LINE、ラジオなど充実している。
目標(値)（※２）		
実績(値)	現状を継続している。	現状を継続している。
団体の自己評価		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	隣県や首都圏だけではなく、全国の劇場・音楽堂等の連携・協力・支援に努めている	期待できる。
目標(値)（※2）		
実績(値)	他施設等からの招へいによる講師派遣（３件） ・法政大学人間環境学部 ・(公財）豊橋文化振興財団 ・(公財）全国公立文化施設協会	現状を継続している。
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	配置している。	配置している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	現状を継続している。	現状を継続している。
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	整備されている。	役割分担されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	現状を継続している。	現状を継続している。
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	行っている。	努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	現状を継続している。	管理職（館長、副館長、課長）5 名（うち女性 1 名） リーダー（係長、チーフ）8 名（うち女性 3 名） 計　13 名（うち女性 4 名）30.8%
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	推進している。	行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	現状を継続している。	現状を継続している。
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	行っている。	交わしている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	現状を継続している。	現状を継続している。
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
本年度は、各評価指標において概ね目標を上回る成果を挙げ、人材育成・事業運営の両面で着実な前進が見られた。特に人材養成事業においては、研修後の満足度が想定を超える高評価となり、育成対象者の期待に応える実践的かつ有効なプログラムが提供できた点は大きな成果である。また、当館スタッフにおいて、若手・中堅・ベテランがそれぞれの強みを活かして関わる体制や、現場を通じた若手人材の育成機会の創出は、持続可能な人材基盤の構築という観点からも意義深い取り組みとなった。 事業面では、一部で参加者数の目標未達が見られたものの、複数事業で目標を大きく上回ったことにより、全体としては参加者数・新規来館者数ともに目標を達成した。加えて、アンケートにおいて「また観たい」と回答した来場者が９割を超えたことから、施設の特性や専門性を活かした企画が来場者の満足度向上に強く寄与していることが確認できる。文化施設間の連携による複合的な体験の創出や、参加型プログラムを通じた主体的関与の促進も、文化芸術への関心を深める有効な手法として機能した。 さらに、アウトリーチ事業の展開により、特別支援学校との新たな関係構築や地域への文化芸術の浸透が進んだ点も評価できる。字幕表示やソーシャルストーリーの導入など、誰もが鑑賞しやすい環境整備を進めたことは、インクルーシブな文化施設としての価値を高める取り組みとして成果を上げている。加えて、生活の質（QOL）や貸館利用者満足度が高水準を示したことからも、施設運営全体における質の高さがうかがえる。 一方で、子ども対象事業の参加率や若年層・子育て世代の利用拡大については課題が残っており、既存のアウトリーチで築いた関係性を他事業へ波及させる工夫や、より参加しやすいプログラム設計・広報手法の見直しが求められる。 総じて、本年度は質の高い事業実施と人材育成、連携の拡張がバランスよく進んだ一年であり、今後はこれらの成果を基盤としながら、ターゲット層の拡大と継続的な来館につなげる仕組みづくりを強化していくことが期待される。

備考